

ふるさと納税で地域活性化

－クラウドファンディング型ふるさと納税の活用の研究－

研究受託者 岩手大学教育学部社会科サブコース法学研究室

畠山侑也、中村勇太、渡邊勇介（学部4年）

指導教員 菊地 洋（教育学部）

1. はじめに

岩手大学教育学部社会科サブコース法学研究室に所属する4年生3名は、岩手県遠野市産業部商工労働課より「ふるさと納税で地域活性化－クラウドファンディング型ふるさと納税の活用の研究－」というテーマで調査の依頼があった。テーマの要旨は以下の通りである。

応援したい自治体に寄附をすることにより、税金の控除が受けられる『ふるさと納税制度』が全国的な広がりを見せている。返礼品の取り扱いが問題視される一方、国（総務省）では、クラウドファンディング型ふるさと納税に取り組む自治体を支援している。

遠野市では、このクラウドファンディング型ふるさと納税として、地域の文化・経済の好循環が図られるよう、地域団体等の事業者へ、ふるさと納税で寄せられた寄附金を財源に補助金を交付している。税金の使いみちを、自分で決められるふるさと納税が地域活性化への効果の発揮や、他の地域への波及の可能性について研究して頂きたいというものである。

クラウドファンディング型ふるさと納税が地域活性化へどのような役割を果たすのか、他の地域への波及の可能性はあるのかについて研究したいと考えた。今回、研究をしていく事例は岩手県遠野市が2018年度クラウドファンディング型ふるさと納税（遠野市ふるさと未来投資支援事業費補助金）の事業選定を行い、申請・事業承認をした「遠野市上組町南部ばやし保存会」、事業名は「南部ばやしを活用した交流促進事業」である。

今回の調査では「遠野市上組町南部ばやし保存会」にも協力を頂き、インタビューを含め実地調査を行った。また、遠野市にも協力を頂き、今回の「南部ばやしを活用した交流促進事業」に寄附して頂いた方々へのアンケート調査を行った。今回の事業の事例からクラウドファンディング型ふるさと納税を活用した地域活性化へのヒントやアイデアを見つけていきたい。

近年、ふるさと納税がブームとなっているが、学生である私たちはふるさと納税に対する知識は皆無であった。ふるさと納税は返礼品のイメージしか持っておらず、ふるさと納税する納税者は返礼品が目的である割合が高いと思っていた。調査を進めていく中で、クラウドファンディング型のふるさと納税をしている寄附者のうち、返礼品が目的でない寄附者もいた。返礼品が目的でない寄附者がなぜ、今回の事業に寄附を行ったのか気になった。また、何かのヒントも得られるのではないかと考えた。そこで、ふるさと納税の制度の概要からまとめ、ふるさと納税の現状、そして「南部ばやしを活用した交流促進事業」の調査を通じて、クラウドファンディング型ふるさと納税がどのように地域活性化へつなげることができるのかを提案していきたい。

2. 調査方法

調査方法は、岩手県遠野市商工労働課に協力を頂き、2019年8月1日に遠野市役所における遠野市商工労働課クラウドファンディング型ふるさと納税担当者への聞き取り調査、2019年9月21日、22日に岩手県遠野市で行われた「遠野まつり」での実地調査、2019年12月末に行った、岩手県遠野市2018年度クラウドファンディング型ふるさと納税（遠野市ふるさと未来投資支援事業費補助金）「南部ばやしを活用した交流促進事業」へ寄附した方々へのアンケート調査の3点である。

3. 結果及び考察

1) ふるさと納税制度とは

ふるさと納税は、平成21年度（2009年）に総務省より導入された制度である。「ふるさと納税で『地方創生』」（総務省ふるさと納税ポータルサイトより引用¹⁾）をふるさと納税の理念としており、ふるさと納税で日本を元気にすることを目的に3つの意義を持っている。第一に、納税者が寄附先を選択する制度であり、選択するからこそ、その使われ方を考えるきっかけとなる制

令和元年度地域課題解決プログラム

度であること。これは、税に対する意識が高まり、納税の大切さを自分ごととしてとらえる貴重な機会となる。第二に、生まれ故郷はもちろん、お世話になった地域に、これから応援したい地域にも力になれる制度であること。これは、人を育て、自然を守る、地域の環境を育む支援となる。そして第三に、自治体が国民に取組をアピールすることでふるさと納税を呼びかけ、自治体間の競争が進むこと。これは、選んでもらうに相応しい、地域のあり方をあらためて考えるきっかけへとつながる。以上が総務省より提唱するふるさと納税の理念である。

次にふるさと納税制度の概要についてである。都道府県・市町村に対してふるさと納税（寄附）をすると、ふるさと納税（寄附）額のうち 2,000 円を越える部分について、一定の上限まで、原則として所得税・個人住民税から全額が控除されるものである。

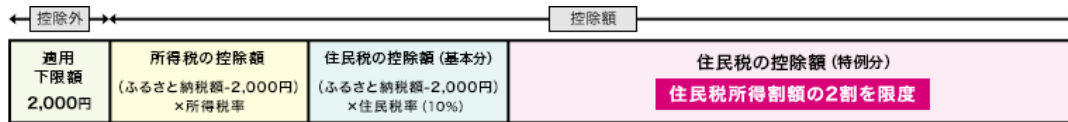


図1 控除額の計算の仕方について（総務省ふるさと納税ポータルサイトより引用）¹

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/mechanism/about.html

総務省自治税務局市町村税課による『ふるさと納税に関する現況調査結果（令和元年度実施）』によると、ふるさと納税が始まった平成21年度のふるさと納税受入額は約81億円、ふるさと納税受入件数は約5万件に対し、そこからふるさと納税受入金額・件数共に増え続け、3年後の平成24年度は、約104億円、約12万件。さらに制度が始まって5年後の平成26年度は約389億円、約191万件となり、最も直近の平成30年度は約5,127億円、約2,322万件となっている。これは、平成21年度に比べふるさと納税受入金額は約63倍、ふるさと納税受入件数は約464倍となっている。

2) 調査対象とする遠野市のクラウドファンディング型ふるさと納税とは

今回調査する岩手県遠野市のクラウドファンディング型ふるさと納税（遠野市ふるさと未来投資支援事業費補助金）「南部ばやしを活用した交流促進事業」について、概観する。

2018年のクラウドファンディング「遠野まつりの花形！「南部ばやし」の踊り子たちの着物を新調し、未来まで美しく残したい！」（遠野南部ばやし上組町保存会）の結果は以下の通りである。

TOP > 過去実績 > 遠野まつりの花形！「南部ばやし」の踊り子たちの着物を新調し、未来まで美しく残したい！

遠野まつりの花形！「南部ばやし」の踊り子たちの着物を新調し、未来まで美しく残したい！

カテゴリー：伝統・文化・歴史



寄附金額 **1,114,000円**

111.4%

目標金額: 1,000,000円

| | | |
|--------|------|------|
| 達成率 | 支援人数 | 終了まで |
| 111.4% | 35人 | 受付終了 |

📍 岩手県遠野市 (いわてけん とおのし)

♡ お気に入り

ツイート | いいね! | シェア

(ふるさとチョイスより引用)

令和元年度地域課題解決プログラム

●「南部ばやしを活用した交流促進事業」における成果

目標金額…1,000,000円

寄附金額…1,321,000円 内訳…県外 405,000円、県内 70,000円、市内 350,000円、
町内 496,000円

寄附者数…39人 内訳…県外 17人、県内 5人、市内 6人、町内 11人

(データ提供 岩手県遠野市産業部商工労働課)

3) 調査方法

私たちは、このクラウドファンディングに参加していただいた皆さんへアンケート調査を計画するとともに、クラウドファンディングを受ける側の上組町の人々にも遠野まつりの際に聞き取り調査を実施した。

1 クラウドファンディング型ふるさと納税に関するアンケート調査

- ・調査対象数 39人
- ・調査回答数 23人 回答割合 約59%

2 調査用紙送付枚数

A4で4枚

(A3を両面印刷し2つ折りにしたものを遠野市に市からのお知らせと一緒に送付)

4) 分析・検討

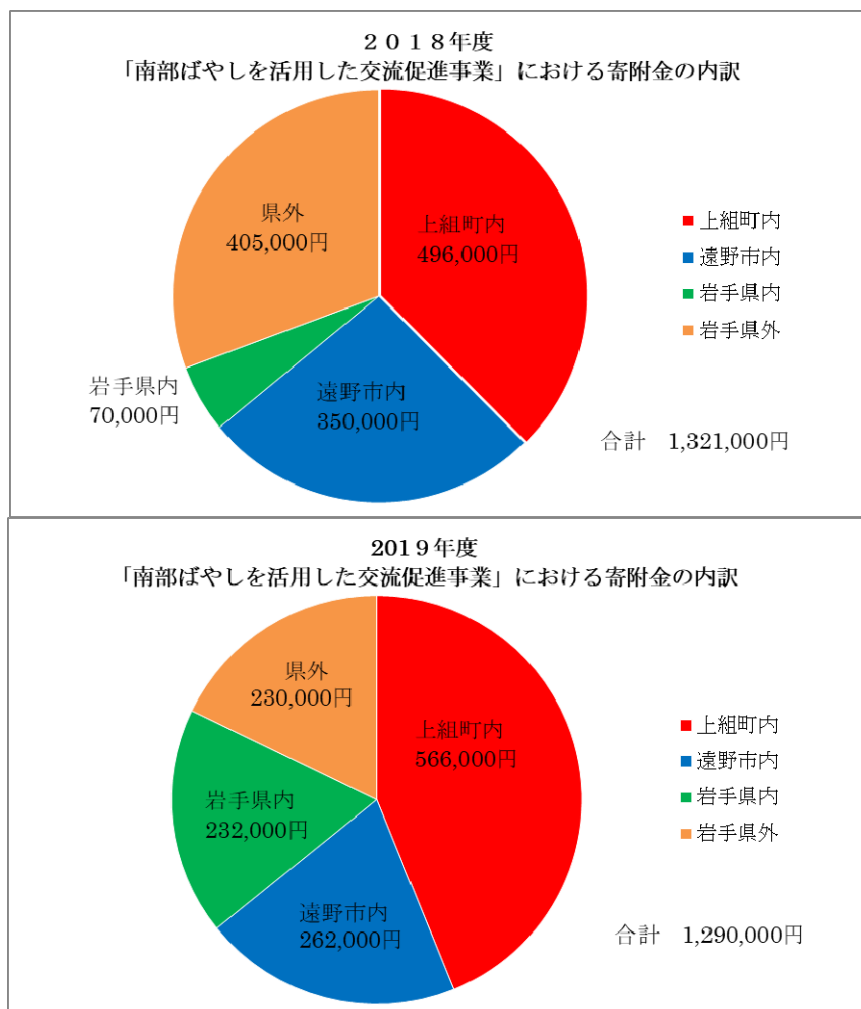
遠野市は2018年度、「遠野まつりの花形！「南部ばやし」の踊り子たちの着物を新調し、未来まで美しく残したい！」(遠野南部ばやし上組町保存会)のプロジェクトに成功し目標金額に対し約132%の寄附金を集めることができたことは先述のとおり。そして、2019年も同様に遠野市は「南部ばやし」に関連した2つプロジェクトを承認している。そのプロジェクトの結果が対照的であるため、紹介していきたい。そして、そこから遠野市におけるクラウドファンディング型ふるさと納税の可能性が見えてくるのではないかと考える。

まず1つ目のプロジェクトは、「上組町南部ばやし」を長らく支えて来た「山車」の土台を新調し、子どもたちの「未来」につなげたい(上組町南部ばやし保存会)である。2018年度「遠野まつりの花形！「南部ばやし」の踊り子たちの着物を新調し、未来まで美しく残したい！」では、踊り子の衣装を新調するために寄附金を募るプロジェクトであった。2019年度「上組町南部ばやし」を長らく支えて来た「山車」の土台を新調し、子どもたちの「未来」につなげたい」では、30年近くにわたり支えてきた山車の土台の修繕が難しくなり、今回クラウドファンディング型ふるさと納税での寄附金を活用することで、山車の台車を新調し、「南部ばやし」を未来の子どもたちにつなげるためのプロジェクトである。今回のプロジェクトでは、寄附募集期間は2019年12月9日から2020年1月13日までの36日間、目標金額は前年度と同じ1,000,000円である。実際に集まった寄附金は約1,290,000円であった。



(上組町南部ばやし保存会の遠野まつりでの様子)

令和元年度地域課題解決プログラム



(上組町における寄附金の内訳 上2018年度、下2019年度)

2019年度、仲町南部ばやし保存会でのプロジェクトの概要は、南部ばやしに使用する、衣装や道具を再整備することにより、南部ばやしの保存・伝承を図ること。さらに、今後、気軽に南部ばやしに参加してもらうため、3か年計画で、物品等を整備し、交流人口の拡大を図っていくというものである。その3か年計画の中で今回は、集められた寄附金を仲町南部ばやし伝承に向けた衣装の整備を行うというものである。

今回、仲町南部ばやし保存会のプロジェクトにおける目標金額は上組町南部ばやし保存会と同じ1,000,000円で、寄附募集期間は2019年11月22日から2020年2月21日までの92日間であり、期間は上組町南部ばやし保存会と比較し、約2.7倍の長さには設定されている。寄附金額の合計が214,000円となり、目標金額に対して約21.4%の数値となった。

◎プロジェクト名：「遠野まつりの花形！「南部ばやし」の踊り子たちの着物を新調し、未来まで美しく残したい！」(遠野南部ばやし上組町保存会)

目標金額：1,000,000円

寄附金額：約12,900,000円(目標金額に対し約129%)※

募集期間：2019年12月9日から2020年1月13日(36日間)

◎プロジェクト名：「300年を超える歴史を持つ『南部ばやし』の保存・伝承に向けて、物品等の整備を行いたい。」(仲町南部ばやし保存会)

目標金額：1,000,000円

寄附金額：214,000円(目標金額に対し約21.4%)

募集期間：2019年11月22日から2020年2月21日(92日間)

令和元年度地域課題解決プログラム

2つのプロジェクトを比較すると対照的な結果となった。上組町南部ばやし保存会と仲町南部ばやし保存会との差はどこにあるのか、私たちは町内あるいは保存会内における結束力の強さであると考ええる。

アンケート調査回答の意見にもあったように、今回集められた寄附額と、上組町自身の努力による集金との比率が公開されておらず、寄附に頼らなければ維持できないのか、自活のための努力が行われたのかは検証ができない。2018年度の上組町南部ばやし保存会のプロジェクトを知ったきっかけも知人から知ったという割合が一番高く、その次にふるさと納税サイト（ふるさとチョイス）から知ったという寄附者が多い結果であった。この点から、上組町自身が住民や知人、関わりのある方に声をかけるなど働きかけることで目的達成へと繋がることのできたのではないだろうか。上組町南部ばやし保存会と仲町南部ばやし保存会とのプロジェクトを比較しても、同じ「南部ばやし」を活用するための取り組みであり、大きな違いは見られない。やはり、上組町の働きかけや町内の結びつきの強さに結果が伴ったといえるのではないだろうか。

クラウドファンディング型ふるさと納税とプロジェクトは目的達成しているプロジェクトばかりではない。同じ岩手県内においても目的達成出来なかったプロジェクトも多くあり、逆に、目的達成したプロジェクトの方が少ない割合となっている。仲町南部ばやし保存会の取り組みが決して悪かったわけではなく、ふるさと納税サイトだけでは認知度・知名度が低かったのではないだろうか。上組町と仲町とで同じ「南部ばやし」をピックアップし類似性が高かったことも要因の1つかもしれない。また、伝統芸能を維持することにあたっては、少子高齢化社会が進む現在、同じ岩手県内においても重要な課題の1つとなっている。いかに、知名度や認知度を上げ、プロジェクトに対し共感を集め、寄附金を集められるかが課題となってくると考えられる。

この章のまとめとして、岩手県遠野市におけるクラウドファンディング型ふるさと納税を成功させるためには、自治体側が結束を高め、ふるさと納税サイトに限らず、情報を発信するなど働きかけ続けることが大切であると考ええる。また、類似性が高いプロジェクトに対しては、他のプロジェクトとの区別をしっかりと行い、より共感を得られるような工夫が求められると考ええる。上組町南部ばやし保存会では岩手県遠野市において2年連続で、プロジェクトを成功させ、伝統芸能を維持への貴重な財源を得ている。今回、上組町南部ばやし保存会のプロジェクトが成功したように、自治体（団体）側が働きかけ続け、プロジェクトに対しての共感を集め、継続的に応援してくれる寄附者を得ることができれば、岩手県遠野市においてクラウドファンディング型ふるさと納税は、大きな可能性を秘めていると考えられる。

5) 提案

—クラウドファンディング型ふるさと納税と地域活性化について—

ここからは、クラウドファンディング型ふるさと納税と地域活性化について論じていく。

私たちは、自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄附金の使い方を示し、プロジェクト化することにより、この事案の共感した寄附者から寄附金を集めることができ、問題の解決へと繋げることができる。従来のふるさと納税では、応援したい自治体を自分で決めることは可能だが、寄附金の用途についてはそれほど重要視されず、自分の寄附金（税金）が使われている所を目に見える形で見ることが不可能である。その点、クラウドファンディング型ふるさと納税は、目に見える形で自分の寄附金（税金）の使い方を指定できる。このクラウドファンディング型ふるさと納税は、自治体が行う公共性の高いプロジェクトであるため従来のふるさと納税制度と同様に、寄附金控除の制度がある。地域が抱える諸問題に対して、このクラウドファンディング型ふるさと納税を活用することが可能であれば、地方創生・地域活性化のために大きく役立てることができる。と考える。

今回は、遠野市におけるクラウドファンディング型ふるさと納税の調査を行ってきた。伝統芸能を維持するための取り組みとしてクラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、成功した事例（上組町南部ばやし保存会）・類似性の高い事業であったがうまく寄附金を集められなかった事例（仲町南部ばやし保存会）を調査した。上組町南部ばやし保存会の事例は地域が抱える問題に対し、地域が結束力を高め、伝統芸能を維持する目標達成することができた。これは、クラウドファンディング型ふるさと納税を上手に活用し地域活性化へとつなげることでできた成功例であるといえる。

令和元年度地域課題解決プログラム

ークラウドファンディング型ふるさと納税の可能性と成功のカギとは—

ここからは、クラウドファンディング型ふるさと納税の今後における可能性、そしてクラウドファンディング型ふるさと納税を成功させるための提案をしていく。

今回は、伝統芸能を維持するための取り組みとして「南部ばやしを活用した交流促進事業」を調査し、伝統芸能を維持していくためには、自治体側（上組町南部ばやし保存会）が結束力を高め、知人や関わりのある方を中心に働きかけ続けることで、寄附金を集めることが重要であることがわかった。この点から私たちは、伝統芸能を維持するためには、不特定多数の方に対し寄附を募るのではなく、その伝統芸能に対し、縁やゆかり・関わりのある方を中心に、伝統芸能に対し理解のある方をターゲットに、寄附を募ることが有効であると考え。「南部ばやし」と同様に、日本全国において伝統芸能を維持することが難しくなり、同じような諸問題を抱えている自治体は数多くある。その際、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、問題解決へ繋げていくためには、プロジェクトに対する共感を集める必要がある。寄附金の使い道が明確であるからこそ、共感を集めることはクラウドファンディング型ふるさと納税において欠かせないものである。その点は、クラウドファンディング型ふるさと納税の長所でもあり短所でもある。共感を集めるためにはやはり、不特定多数の方をターゲットにするのではなく、プロジェクトに対して、繋がりのある方をターゲットにした方がより共感を集めやすく、有効であると考え。

また、私たちは、伝統芸能を維持していくためには継続的に支援してもらうことが大切であると考え。今回、主なクラウドファンディング型ふるさと納税の取り組みとして首里城の例を挙げた。災害復旧系の問題に対しては、より共感を集めやすく寄附金を集めやすい。「首里城」という誰もが知っている琉球のシンボルであれば、インパクトも強くより一層寄附金を集めやすい。ただ、災害復旧系の問題は、寄附者も感情的である反面、一時的な支援で終わるケースが多い。クラウドファンディングはただ1回だけの単発で問題すべてが解決することができるのだろうか。私たちは、クラウドファンディングにおいて継続的な支援が必要であると考え。これは、伝統芸能を維持することに対しても同様である。伝統芸能は数多くあり、有名なものから、あまり知られていないものもあり、知るきっかけも少ない。伝統芸能に対し理解や繋がりのある方を中心に、濃密な関係を築き、継続的に支援していただくことが大切である。

クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、伝統芸能を維持するために継続的に支援してもらうことや新しい支援者を見つけるためには、自治体側の工夫が必要不可欠である。プロジェクトに対し、より共感を集めやすくするためにホームページの作りを良くするなどといった工夫が求められる。また、寄附金の使い道においても、より具体的かつ明確に示していく必要がある。また、一方では、自治体側が地域と協力し合い、働きかけ続けることも必要であると考え。地域の諸問題を解決し、地域活性化へ繋げるためには、地域の方々と自治体が1つになり問題解決へ取り組むことが大切である。

今後におけるクラウドファンディング型ふるさと納税を成功させるためのポイントは、いかに支援者を集め、継続的に支援してもらえるかである。地域の諸問題解決のためのプロジェクトに対してより共感を集め、寄附者を募ることができるか、そして、プロジェクトに対する支援が単発で終わることなく、継続的に支援してもらえるか。そのためには、自治体側が寄附者との繋がりを大切に、濃密な関係を築くことが、必要である。

「南部ばやしを活用した交流促進事業」の調査より、以上の点が、今後におけるクラウドファンディング型ふるさと納税の成功のポイントであると結論付ける。

参考文献

¹総務省ふるさと納税ポータルサイト

www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html

図1 総務省ふるさと納税ポータルサイト ふるさと納税のしくみ

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/mechanism/about.html

図2 ふるさとチョイス はじめてのふるさと納税とは？

https://www.furusato-tax.jp/about?top_left_pr

²ふるさと納税に関する現況調査結果（令和元年度実施）

令和元年8月2日自治税務局市町村税課

令和元年度地域課題解決プログラム

www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/file/report20190802.pdf

³総務省自治税務局

「ふるさと納税指定制度における令和元年6月1日以降の指定について」

www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/file/report20190514_02.pdf

⁴地方自治体の資金調達法「ガバメントクラウドファンディング」について（公務員総研）

<https://koumu.inn/articles/1238>

⁵新しい地域創生手段としてのガバメントクラウドファンディング

<https://consultant-top.com/government-cloudfunding>

⁶ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング®「ヤマ[山崎山]を守り、江戸からある自然を子供たちへ（埼玉県宮代町）」

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/4>

⁷ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング®「沖縄のシンボル「首里城」再建支援プロジェクト Donations for the rebuilding of fire-ravaged Shuri Castle（沖縄県那覇市）」

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/717>

⁸ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング®「遠野まつりの花形！「南部ばやし」の踊り子たちの着物を新調し、未来まで美しく残したい！」（遠野南部ばやし上組町保存会）」

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/477>

⁹ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング®「「上組町南部ばやし」を長らく支えて来た「山車」の土台を新調し、子どもたちの「未来」につなげたい」（遠野南部ばやし上組町保存会）」

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/741>

¹⁰ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング®「300年を超える歴史を持つ『南部ばやし』の保存・伝承に向けて、物品等の整備を行いたい。」（仲町南部ばやし保存会）」

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/715>